



園長便りひがし

令和8年6月11日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

運動会

6月6日に第54回目の運動会が行われました。例年ですと生目の杜はんぴドームで行われますが、今年は改修工事が重なり、檜北小学校の体育館をお借りして行いました。園児はこの日のためにどの学年も一生懸命に練習をしてきました。かけっこではどの子も最後までしっかり走ることができました。

年少・つぼみさんのリズム「チャオ、チャオ、チャオ」は、投げキッスをしながら、ニコニコして可愛く踊ることができました。年中さんのリズム「学園天国」は、ボンボンを上手にを使って隊形移動をしながら踊ることができました。そして、年長さんのバルーンと組体操は、これまでの練習の成果が発揮され、みんな堂々と演技をして私も涙が出るぐらい嬉しかったです。競技には勝ち負けがありますが、一生懸命に頑張る姿に勝ち負けは関係ありません。心を一つにしてやり遂げてことは子ども達の宝物になると思います。

例年よりも子ども達が近い感じがしてよかったですというご意見もいただきました。

運動会役員の皆様をはじめご家族の皆様、ご声援やご協力をいただきまして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



子どもは親の後姿を見ている

子どもは親の言うことより親のすることを見て学習します。子どもは、優れた「観察学習」の能力があります。そのため、一度見たことは記憶し、忘れることはありません。また、親の行動は、全て観察され、真似されます。ですから、親の言うことを聞かないと嘆くことはありません。親の言うことではなく、親のすることから、しっかりと学習しているからです。たとえば、「部屋の掃除をきちんとしなさい！」と何度叱っても、子どもが部屋の掃除をきちんとしなさいとします。そのような場合は、実は、親の部屋もちらかっており、親も掃除をきちんとしていないことが多いのです。子どもは、親の言うことよりも、親のすることから、しっかりと学習しているのです。ですから、何度叱っても聞いてくれない場合は、親自身の行動を見直すといいということです。

先ほどの、部屋をきちんと掃除しないということでしたら、まずは、親が部屋をきちんと掃除する習慣を付けることです。そうすると、子どもは優れた観察学習能力をもっているため、親のすることをしっかりと記憶し、きちんと掃除し始めます。このように、子どもに言って聞かせるのではなく、子どもに親の行動を見せて覚えさせる方が、効果的ということなのです。親も教師も口ばかりでなく、後ろ姿で子どもたちを育てていかなければならないということですね。

「自分の後姿は自分じゃ見えねんだなあ」 相田みつお

